

みき通信

日本共産党 町議会議員
くぼたみき 活動報告

第72号 2017年7月30日

発行 がんばれ くぼたみきの会

連絡先 875-7126 (阿部)



くぼた みき 「議会報告会」 in 葉桜

7月2日(日)午後、くぼたみきさんの議会報告会が、葉桜団地内で行われました。子育て支援策の拡充、ごみ処理広域化につて、高齢者福祉など、一般質問の内容と町の回答のほか、中学校給食の問題などの報告があり、質問を交え身近な話題に話は尽きませんでした。

気になったのは、小児医療無料化の対象年齢引き上げや、高齢者の足となるバスのシニアバスの補助など、利用者が少ないという理由で町の姿勢が消極的だということです。利用が少ないから必要なしというのではなく、利用しやすくする工夫や、利用が少なくとも対象者はいるのですから、もっと積極的に取り組んで、子育て世代からお年寄りまで安心して暮らせるように、町の制度を充実させるべきでしょう。

国の医療や介護の仕組みがどんどんこわされ、地方自治体に負担が押し付けられる中で、業者の辞退で建設されなくなった、地域密着型特養施設への対応など、ほとんど具体策を持たない町の姿勢が問われています。

町民が関心を持って町に要求を出していくことと、その代弁者として議員の役割が重要です。

さて、注目の都議会選挙では、都民ファーストの会が第1党となり、国民の怒りが自民党を大敗させました。

一貫して築地市場の豊洲移転に反対し、「豊洲に汚染対策の盛土なし」を突きとめた日本共産党は、17議席から19議席に議席をのばしました。

憲法に従わず、国政を私物化するアベ政権への怒りが、この国を動かしています。

学校給食センター化 このまま進んで大丈夫？

町議会議員 くぼた みき

小学校4校分と中学校2校分を合わせ共同調理場を建設するセンター方式を採用して、中学校給食を進める。という計画が出され動き出しています。

ですが、おおもとになる建設予定地に関し二転三転し、今では「6校合わせたセンター方式を進める」という根本部分だけが残っている感じを受けています。

建設地を周辺道路が狭く危険だと言われた上山口小学校旧校舎から葉山中学校保護者駐車場に変更しました。しかし用地整備費用に2億円弱予定していたものが4億円掛かるかもしれない。となり再度の建設地を見直すこととなりました。これまで「学校給食センター建設」は専門家の力は借りず、他自治体の建設状況を調査し職員間で計画を進めてきました。議会からも建設にあたり専門家の声を聞くべきと声を上げ、現在は「建築、土木設計に精通した業者に調査を考える。『葉山町学校給食基本構想』では敷地造成後にセンターを建設するとしているが、法面にセンターを建設しセンター建設費の抑制が図れるか検討する」となっています。31年9月の給食開始は断念です。32年9月も難しい状況ではないでしょうか。

オリンピック開催の影響で建築費用の高騰が問題になっています。32年9月供用開始を目標にしていますが、建築資材高騰の影響はどのくらい受けるのでしょうか。今後は専門家の声を聞くとしていますが、中学校給食を望む多くの声にこたえるためと、早急に計画を進めてきてしまった結果なのかもしれません。

葉山町は小学校の給食施設の老朽化もありセンター化を進めるとしています。京都府八幡市では、3小学校の給食調理室で4中学校分の給食も作る親子方式を採用し、3小学校の改修費用は4億円と言います。財政的理由で建設地を見直すのであるなら、自校式により近い親子方式も検討すべきと考えます。